

子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Effect of birth season on allergic rhinitis and cedar pollinosis considering allergen and vitamin D exposure: the Japan Environment and Children's Study (JECS)

和文タイトル:

アレルゲンとビタミンDを考慮に入れた生まれた季節と花粉症、アレルギー性鼻炎との関連:エコチル調査

ユニットセンター(UC)等名: 甲信ユニットセンター(山梨大学)

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Allergology International

年: 2023 DOI: 10.1016/j.alit.2023.01.003

筆頭著者名: 小島 令嗣

所属 UC 名: 甲信ユニットセンター

目的:

生まれた季節と花粉症、アレルギー性鼻炎の関連については、アレルゲンと血中ビタミンD濃度を同時に検討した研究が少なく、研究結果が一致していない。本研究では、アレルゲンとビタミンDを考慮に入れ、生まれた季節とスギ花粉症、アレルギー性鼻炎との関連を明らかにすることを目的とした。

方法:

エコチル詳細調査に参加した4,323名の訪問調査のデータおよび生まれた子どもの3歳までのデータを解析した。出生した年のスギ花粉飛散量および2歳時の血中ビタミンD濃度を調整して、3歳の時の花粉症、アレルギー性鼻炎の関連を多変量ロジスティック解析で解析した。

結果:

冬生まれと比べて、夏と春生まれの子どもは、3歳の時の花粉症への有意なリスク上昇がみられた。一方、生まれた季節とアレルギー性鼻炎(通年性)との間には関連がみられなかった。

考察(研究の限界を含める):

本研究結果から夏と春生まれの子どもは3歳の時の花粉症のリスクが高い可能性が示唆された。アレルギー性鼻炎については関連がみられなかったが、アレルギー性鼻炎は学童期から有病率が増加するため、今後追跡調査が必要である。

結論:

夏と春生まれの子どもは3歳の時の花粉症のリスクが高かった。